

国語科の主張

1 教科で育みたい人間像

5 言葉には世界を変える力がある。心が塞ぎ込んでいても、友達の一言に勇気をもたらすことで、心が軽くなったり、自分の言葉が誰かを楽しませ、笑顔を生んだりすることもある。また、昔から語り継がれる文章や言葉が、時代を超えて私たちの胸を打つこともある。現代では、ネットワークの進歩によって自分の思いをより簡単に、より速く、より広く伝えることができるようになった。

10 SNSや日常の何気ない会話では、便利で汎用性のある表現が無意識に使われている。相手の発言に対してテンポよく反応を示し、円滑にコミュニケーションを行うという点では言葉の選択を行っていると言えるだろう。しかし、瞬発的に選んだ言葉だけを使って自分の思いを的確に表現できるだろうか。相手に自分の思いを伝えたいと感じたとき、自分の発する言葉を見つめ直すことが求められる。誰に、何のために、どんな言葉を用いるのかを思い描くこと、どのように相手に伝わるのかを想像すること、相手の心を動かすのに最適な言葉を探そうとすること、「あの言葉がいいだろうか、それともこの表現のほうが素敵だろうか」
15 と、発する言葉の選択肢に幅があり、複数のアプローチをもっていること、そういったことが、他者の心に思いを届けることにつながる。

また、言葉を受け取る際も、言葉を通じて想像力を膨らめることが大切である。相手の言葉や文章から適切に要旨をつかむこと、さらには言葉の奥にある相手の心情や意図に思いを巡らすこと、そういったことが相手を受け入れ、互いにわかり合えるきっかけとなる。

20 このように、一歩立ち止まって自分の思いや考えを伝えたりするために言葉を吟味したり、他者の思いや考えを感じとったりしていくことは、言葉自体の価値に目を向け、言葉を大切にしている姿であり、豊かな言語感覚をもつ人と言える。きっと、そのような人は、言葉を通してその心のあり様も豊かになり、自分の行動や世界の見え方までもが変わってくるだろう。そして、豊かな言語感覚をもつ人の人生は彩り深いものになっていくと言えるだろう。

25 以上のことから、子どもたちには「豊かな言語感覚をもつ人」に成長してほしいと願っている。

2 教科で願う子どもの学び

30 私たち国語科が願う子どもの学びとは、「言葉を吟味し、言語感覚を磨き、題材に描かれた価値や人々の生き方、考え方に対して自分なりの考えをもつこと」である。

題材に出会った子どもたちは、その世界を味わいながら、その言葉の意味や表現の意図について考えたり、そこに描かれる人々の思いや筆者の主張をとらえたりしながら、自分の考えを構築していく。

35 言葉を吟味するとは、自分の考えを形成するために文章中のどの言葉を拾い上げるか、どの言葉とどの言葉を結びつけるか、また、形成された自分の考えをどんな言葉で伝えようか、さらに、他者の考えをどう自分の考えと重ね合わせていくかという視点をもってよりよい言葉を選ぶことである。言葉を吟味することは、相手意識をもつことであり、自己理解をすることでもある。

40 言葉を吟味していくことで、言語感覚は磨かれ、言語感覚が磨かれることでまた、新たな言葉の吟味が生まれる。言語感覚を磨きながら、子どもたちは、一つ一つの言葉から自分の読みの解釈をつくり出したり、更新させたりしていく。また、他者と交流することで、新たな読みの解釈にふれ、何度も言葉や自分の読みの解釈と向き合うことで、少しずつ自分の考えをつくりだしていくのである。これらを繰り返していくことで、子どもたちは言葉に対する感度を高め、「豊かな言語感覚をもつ人」へと近づいていくだろう。

45 そして、言葉の世界に浸り、題材に対して十分に思いをもった子どもたちは、題材に描かれている価値観や人々の思いを自分と重ね合わせたり、社会のあり方にまで目を向けたりしていく。このような姿は、題材を通して子どもたちが自らの価値観やものの見方をより豊かにしている姿である。

願う子どもの学びを実現していくために、国語科では、子どもたちが言葉によって自分たちの世界やとらえ方を広げ、学んだことを生かせるような題材や言葉を見つめて語り合える場を設定する。子どもたちが繰り返し言葉の世界に浸ることで、思いや考えを他者とわかり合えることの喜びを味わいながら、言語感覚を磨き、自らの価値観やものの見方を豊かにしていくことを願っている。